

「捕獲個体分析」の評価

1. 取組内容

これまで大台ヶ原では、「大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画」に基づき定められる捕獲目標頭数を目指し個体数調整を実施してきた。個体数調整により捕獲されたニホンジカの生態学特性について分析を行った。

2. 取組の評価

(1) 年齢構成

近年、オスについては幼獣及び成獣個体の捕獲割合がやや高く、一方メスは成獣個体の割合が低くなる傾向がみられた。単年度の性年齢区分別サンプル数が少ないことや、選択的捕獲方法の場合ランダムなサンプリングとならないため、年齢構成の変化を評価することは難しい(表1、図1)。

表1 年度別分析個体の性年齢区分内訳

年度	メス成獣	オス成獣	メス亜成獣	オス亜成獣	メス幼獣	オス幼獣	総計
2002年度	11	3	1	3	3	4	25
2003年度	27	10	5	1	1	1	45
2004年度	20	12	4	4	5	3	48
2005年度	16	4	1	0	3	1	25
2006年度	14	4	1	1	2	3	25
2007年度	20	2	2	1	2	2	29
2008年度	22	12	1	3	4	7	49
2009年度	31	20	2	8	13	15	89
2010年度	29	9	10	8	7	7	70
2011年度	30	16	0	0	5	8	59
2012年度	31	41	3	1	11	10	97
2013年度	14	17	9	13	10	16	79
総計	265	150	39	43	66	77	640

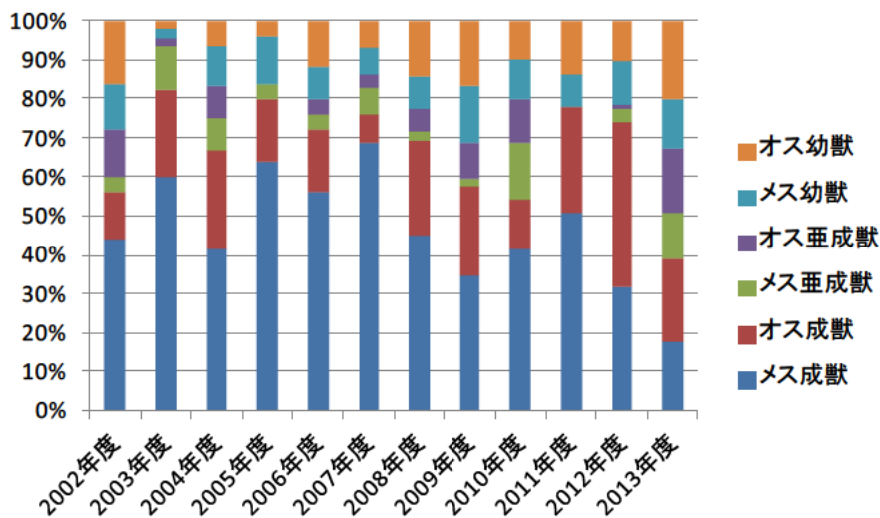


図1 年度別分析個体の性年齢区分内訳

(2) 栄養状態

栄養状態の評価は、腎脂肪指数（以下「RKFI 値」という。）の 1 つであるライニー式腎脂肪指数（Riney,1955）を用いた。評価に当たっては左右の腎臓の RKFI 値を求め、その平均値を用いた。

性年齢区分別季節別の比較を行うにあたり、捕獲月を 4 月～5 月を春季、6 月～8 月を夏季、9 月～11 月を秋季とし、特定計画期間ごとにグルーピング処理を行った。試料数が確保できた成獣について比較を行ったところ、特定計画期間で栄養状態に大きな変化は検出されなかった（Holm の多重比較、 $p>0.05$ ）。

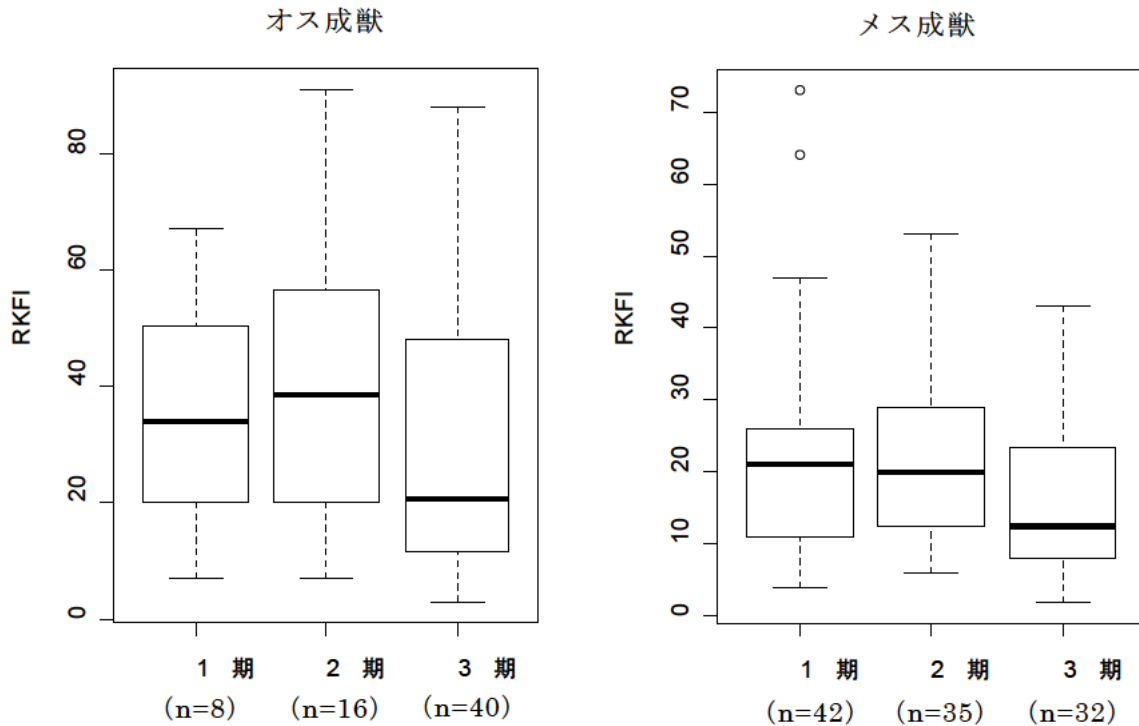


図 4 特定計画期間別の 2 歳以上の RKFI 値

(3) 繁殖状況

繁殖状況を把握するために、「胎児の有」および「産後の子宮肥大」と妊娠・出産に伴うと考えられる「乳汁の分泌の有」の個体を妊娠個体と定義した。成獣メス（繁殖年齢に達している 2 歳以上のメス）について妊娠率をみると、平成 14 年（2002）度の約 70% から右肩あがりで、平成 20 年（2008）度以降は 90% を超えて高い割合で維持されていたが、近年はやや右肩下がりの傾向を示している（図 5）。

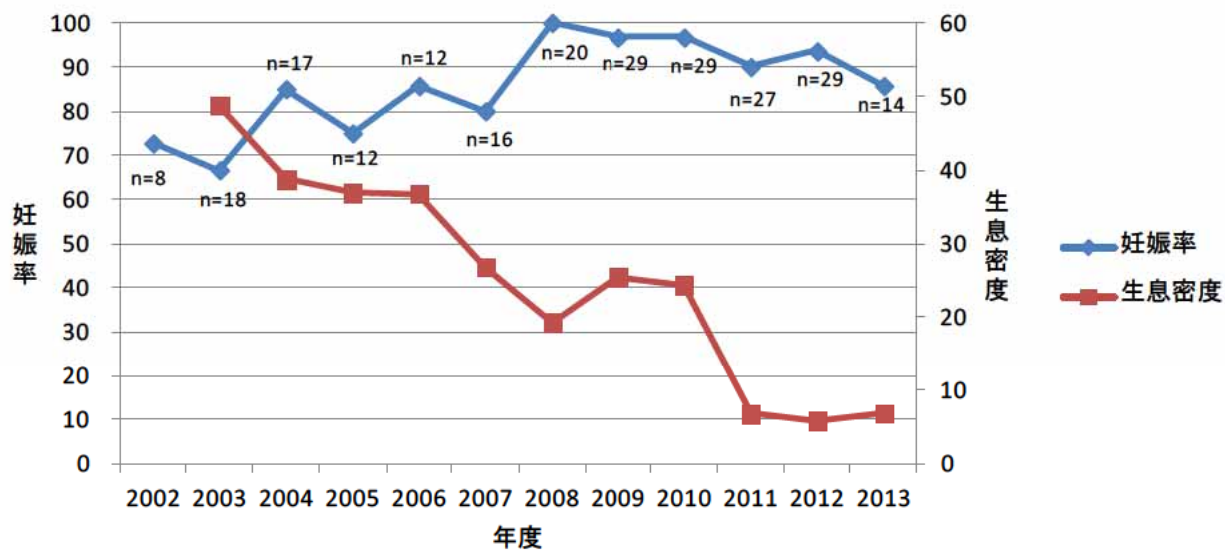


図5 2才以上のメスの妊娠率

(4) まとめ

平成14(2002年度)から12年間の捕獲個体の分析をみると、年齢構成ではオスは幼獣及び成獣個体の捕獲割合がやや高く、一方メスは成獣個体の割合が低くなる傾向がみられた。栄養状態については、捕獲時期の違いにより有意な差があった年度があったが、栄養状態の経年的変化については検出に至らなかった。一方、繁殖状況については、高い妊娠率を維持していると考えられた。